

29【P2】Ⅱ-308

わが国の薬剤師, 医師, 歯科医師, 看護師国家試験出題基準の比較と考察

○江戸 清人¹, 鳥羽 衛¹, 白坂 正良¹(¹福島医大病院薬)

【目的】薬学部6年制度の実施も現実味をおびてきた。医療系学部の一つとして薬学部の卒業生には国家試験の受験資格が与えられている。その国家試験問題の出題基準(コンセプト)は国により定められており、薬学部における講義、基礎薬学実習、病院、保険薬局における実務見学・実習から卒業生の就職に至るまで様々な場面において多大な影響を及ぼしている。

今回は、他の医療職の国家試験問題がどのような出題基準により作成されているのか、医師国家試験、歯科医師国家試験、看護師国家試験それぞれの出題基準を薬剤師国家試験の場合と比較し、考察を加えたので報告する。

【方法】すでに公開されている医師国家試験出題基準(平成13年版、医事試験制度研究会監修)、歯科医師国家試験出題基準(平成14年版、財団法人口腔保健協会)、保健師・助産師・看護師国家試験出題基準(平成15年版、看護問題研究会編、医学書院)、現在の薬剤師国家試験出題基準(平成10年度)等の内容を詳細に検討した。

【結果】薬剤師国家試験問題の出題基準には「必須の基礎的事項」が設けられていない。「禁忌肢の導入」は医師および歯科医師国家試験で採用されているが、薬剤師国家試験では採用されていない。さらに、医療危機管理(リスクマネジメント)や、医療面接(コミュニケーション)、チーム医療等に関しても薬剤師国家試験の出題基準には項目としてあげられていない。

【考察】4年制に対応した薬剤師国家試験の出題基準は平成15年度改訂中である。6年の過程を終了した薬系大学学部卒業生の国家試験受験が開始される際に、出題基準は薬学6年制対応となるため抜本的な改正が必要となるであろう。